

5-9 ウエペケレ

「キクレッポ チチラ ウコイソイタク ヒ アヌ」解説

語り手：貝澤とうるしの

聞き手・解説：萱野茂

萱野：私はある川の、川の流れの中流ごろに住まいをしておる **aynu** [人間] でした。ある時に山へ狩りに行く、いつも行くときに、行く途中、ある一本橋を渡ろうとすると、その時に川の上流から **kikreppo** というの、ヤマベだな？ これ。

貝澤：うん。

萱野：ヤマベが一匹下がってきて、川の下流から **cicira** っちゅうのはこれカジカです。

貝澤：ドジョウ。

萱野：あつ、ドジョウ。

エカシ：ドジョウよ。

萱野：ドジョウが一匹下がってきたと。

そしたらそのドジョウとヤマベの話が始まったので、だまっていたら、その話するのがどういはずみか、その日良く分かる。ヤマベの聞くのには「あんたの村で何か心配事はありませんか？」と言ったら、「いやー、そう心配事ってないんだけど、私たちの村に住んでおるアイヌの家にちょっとしたその心配」、「それは何ですか？」と言ったら「**kikinni** [エゾノウワミズザクラ] という堅杉 (かたすぎ) とそれからクルミの木が生えて、その木の根がその酋長の寝ている枕下へいつてるんで、それが原因で病気になっておるので、それを掘り起こさないと死ぬような心配がありますよ」と。

「あーそう、それは大変ですね。したらドジョウ、あんたの方は何か

心配はありませんか？」と言ったら、そのドジョウの言うのには「私の方のところはそう心配でもないんだけど、私の村の酋長の家に飼っている雄猫がその家の奥さんに惚れて、そして、旦那を殺して、そこに住まおうとしているのも見えてるんですよ」と。

その両方の話を聞いて、私は大急ぎでまず下流へ下がっていった。そしてその家の様子をじっと、まあ話早いんですが、見ると大きな猫がおって、その、行ったらそのドジョウやそれからヤマベの話したとおり、人間に非常に人懐っこくて、体をすり寄せてきたりするけれど、かまわないでおるうちに、食事が出されるとその猫のしっぽがその家の主人の食べ物にチラチラと触っただけで、毒を入れたのを見た。「それを食うな、食うな」と言うと、それを食わずにその猫の腕へ入れたらその猫が **hocikacika** [悶える] と言って、ほたえて死んじまったと。

それからすぐに、まだ山の方へ戻って、そしてその家のそばに生えている **kikinni** という堅杉の木とそれからクルミの木の根をよくよく掘らして、その家の主人の寝ておる枕下へ生えてるそれを掘り起こす。その下に **esaman** といってカワウソが一匹穴を掘ってずっと来てその家の下をやっぱり寝床としておった。それらを退治したので、もう今は死ぬかと思われるほどに重体な病人も、その木の根を取ったり、その **esaman** というカワウソを退治した途端に、非常に元気になっておったと。

私は別にその何かお礼とかそれを希望したわけではないけれども、家へ帰っておると下の村からも、上の村からも沢山の **ikor** [宝] とかお礼の品々が届いて、私は **nispa** [裕福な男性] に、いわゆる金持ちになっておったと。

ま、私の生い立ちの途中でそういう風にヤマベの話し声、あるいはドジョウとヤマベのその話し声を聞いて、それを聞き分けることができたおかげで、上隣の村の酋長も下隣の村の酋長も死なずに済むことができましたよと、一人のアイヌが語りました。

これは、これに類したようなのは、どのテープにか、いわゆるカラスがしゃべった、カラスとワシがしゃべったのを聞いたとか、あるいはこの魚がしゃべったとかいうのはたまたまこうしたことは聞くことができます。

この **uepeker** [散文説話] の題は「**kikreppo cicira ukoysoytak hi a=nu**」いわゆる、ドジョウとヤマベがしゃべったのを私は聞いたという題の **uepeker** [散文説話] で